



おひざのうえで 2024⑦

(副園長の子育て応援通信)

「あけましておめでとうございます」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで

あけましておめでとうございます。

皆様、どのようなお正月を過ごされましたか？

今年は巳年。干支を意識して生活する人はあまりいないかと思いますが、巳年について考えてみましょう。能勢の遠足で時々ヘビが出てきますが、子どもたちは普段千里界限では見ない生き物ですので、獲物を見つけたとばかりに追いかけます（もちろん先生たちが安全な蛇か確かめてからですが）。私が小さい頃は、よくヘビに遭遇しました。通学路で出てきたこともあり、怖くて通れなくなったのを今でも覚えています。近所の雑貨屋さんの床の下にも住み着いていて雑貨屋さんにも怖くて入れませんでした。蛇が棲みつくと「福が来る」とか「富を引き寄せる」と言われていたようで、雑貨屋さんのおばちゃんはヘビが家の前を横切っても平気で、退治するどころかむしろ喜んでいる様子が信じられなかったのを今でも覚えています。小さい頃の怖い記憶が今でも拭えず、ヘビを見ると鳥肌が立ちます。しかし、ヘビは脱皮を繰り返すことから、再生や変化していく生き物として縁起がいいとされています。何か新しいことを始めるときに困難を乗り越える力を与えてくれる縁起物だとか。金運を呼び寄せるとも言われていて、そういえば蛇の皮を財布に入れていた人を見たことがあります。（昔のエピソードばかりでごめんなさい・・・）

ヘビは好きに離れませんが、変化や進化は大好きですので、今年も、また、蛇のように脱皮しながら新たな試みをしていきたいと思います。2学期の振り返り会議でさまざまな課題やテーマを話し合いましたが、「行事」や「園庭環境」など、画期的な意見が出ました。すでに変化・進化が進行中です。子どもが育つことを第一に考え、保護者の皆様にとっても「いいな」と思う方法を探り、進化していく・・・そんな一年になるといいなと思います。

我が家のお正月は例年通り、息子娘の家族が帰省し総勢12人。食材も洗い物も山のようなものでした。お風呂の順番も誰が子どもたちをお風呂に入れるか、片付けても片付けても散らかるおもちゃで家の中はカオスのような状況でしたが、孫の成長が可愛く、これからの幸せを願わずにはいられませんでした。

人によって幸せのかたちはそれぞれだと思いますので、自分のやりたい事を見つけてそこに幸せの種を見出してほしいと思う一方、人とのつながりが希薄になりがちな昨今だからこそ、人とのつながりに日々の幸せを見出せるように生きてほしいと願います。自分の気持ちを大切にしながらも人の気持ちを感じ取り、時には「一緒に難しい」という経験をし、でも「一緒に楽しい」という思いを積み上げてほしいです。そしてそれがその人の幸せにつながると信じています。

「かえちゃんばあばの、『おいしくくたべれますように』のまほうがかかっているからおいしいよ。」と言いながら食べてくれる5歳の孫。積み木で馬小屋の屋根をつくろうと工夫しながら「おうまさんがおひさまパワーがまぶしくないようにしたのよ。」と説明してくれる3歳の孫。苦手なしめじを食べた時の、みんなの拍手喝采と、得意げな3歳の孫の顔。全てが、関係性の中にある幸せを感じます。一人では幸せになれないのです。ちょうどテレビのある番組で、レフ・トルストイの名言が紹介されていました。「人が生きるたった一つの意味は 人を幸せにすることにある」の言葉が心に刺さりました。本年もどうぞよろしくお祈りします。